

群馬大事故調査委 9回中8回で学外委員が不参加

NHK2015.3.20

群馬大学医学部附属病院で、腹くう鏡手術を受けた患者8人が手術後に死亡した問題で、9回開かれた事故調査委員会のうち8回は、医療安全の専門家など4人の学外の委員が参加しないまま開かれていたことが分かりました。

病院内のミーティングを、あとから事故調査

委員会と名前を変えて報告したケースもあり、専門家は、「公平性があるように見せかけた」と批判されてもしかたがない。調査をやり直すべきだ」と話しています。

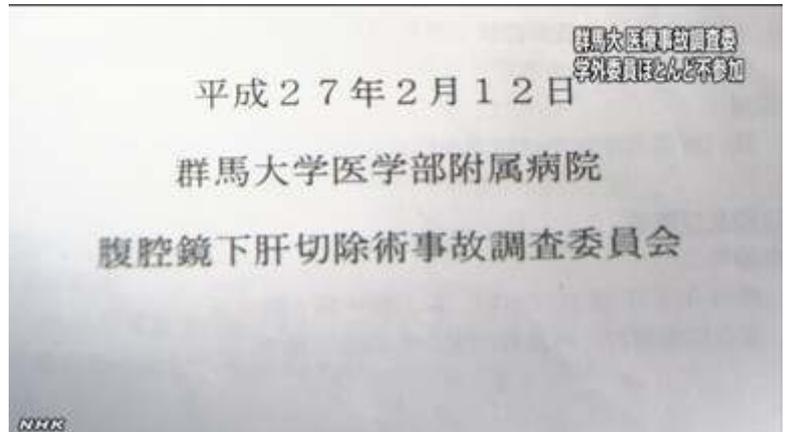
前橋市にある群馬大学医学部附属病院では、去年6月までの4年間に、腹くう鏡の手術を受けた患者8人が手術後に死亡し、病院は、「学内の委員7人と、学外の委員5人で構成する事故調査委員会を9回開いて調査結果をまとめた」と今月3日発表しました。

ところが、NHKが取材したところ、9回の事故調査委員会のうち8回は、メンバーのうち学内の委員か学外委員の大学の顧問弁護士が参加したもので、医療安全の専門家などの4人の学外の委員は、参加していませんでした。

さらに、当初病院内のミーティングとして開いた会合を、あとから「事故調査委員会」と名前を変え、報告書で発表していたケースもありました。

これについて病院側は、「中間報告の段になって名称を変えた」と認めたうえで、「実質的に事故調査委員会なので問題ない」と話しています。

「医療情報の公開・開示を求める市民の会」の代表の勝村久司さんは、「遺族は、外部の委員が加わった調査委員会だから公平性が担保された信頼できる調査だと受け止める。内部の会議を調査委員会だと発表するのは、公平性があるように見せかけた」と批判されてもしかたがない。病院は調査をやり直すべきだ」と指摘しています。



群馬大医学部 学外委員に聞き取り内容知らされず

NHK 2015年03月13日(金)



群馬大学医学部附属病院で腹くう鏡手術を受けた患者8人が手術後に死亡した問題で、調査委員会のメンバーとなった学外の委員4人が、

いずれも最初の1回しか出席を求められず、患者を執刀した医師への聞き取り調査の内容も知らされていなかったと話していることが分かりました。患者が死亡した経緯などについて十分議論出来なかったと話す委員もいて、事故原因の調査が十分にできたのか疑問が出ています。

前橋市にある群馬大学医学部附属病院では、去年6月までの4年間に、40代の男性医師が腹くう鏡を使って肝臓の手術をした患者8人が手術後に死亡し、今日3日、「すべての事例において過失があった」などとする最終報告書が公表されました。

最終報告書は、学内と学外の委員12人でつくる調査委員会がまとめましたが、NHKが学外の委員4人に取材したところ、いずれも大学側に出席を求められたのは、9回あった会合の1回目だけで、その後の会議の議事録や患者を執刀した医師の聞き取り調査の内容については知らされていなかったと話しました。委員の中には、患者が亡くなった原因の究明や問題の発覚が遅れた経緯について十分な議論ができなかったと話す人もいて、8人もの患者が

死亡した医療事故について調査が十分だったのか疑問が出ています。

この問題を巡っては、遺族側の弁護団も「医療事故が起きた詳しい状況が明らかになっていない」と調査の継続を求めています。

これについて、群馬大学医学部附属病院は、学外の委員に会議の議事録や執刀した医師の聞き取り調査の内容を送らなかったと認めただうえで、「報告書の案を複数回送って確認いただいているので議論は可能であったと考えます。会議への出席は話し合う内容に応じて求めています、回数は公表できません」とコメントしています。

これについて、医療安全の問題に詳しい九州大学病院の後信教授は「今回は死亡事例が続いた重大なケースだ。なぜ続いたのか深く踏み込んだ調査が必要だと思う」と話しています。